

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

み な み か ぜ



南 風

第 4 号

令和 4 年 7 月 1 日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

ルール変更～熱中症対応でポロシャツを認めた件

校長 吉原 誠 士

気象庁から「関東甲信地方は梅雨明けしたとみられる」との発表がありました。過去30年の平均では7月19日頃とされているのに、今年は6月27日です。昨年までもいろいろな暑さ対策をしてきましたが、今回は体育科や生徒指導部会から、すぐに次の対応をしようという声が上がりました。保護者や生徒たちからの意見も取り入れ、ポロシャツ着用を認めようというのです。この件については以前から話題にはなっていたものの、関連した様々なルールにも影響すると思われ、なかなか話が進みませんでした。悩みの多い酷暑到来ではありますが、チャンスが訪れたという捉え方もできそうでした。

“世の中の常識”や“時代の進展”等、私たちを取り巻く社会環境は少しずつ変化しています。“児童・生徒の実情”や“保護者の考え方”はそれに応じて変わっていき、しかも一様に統一されたものにはなりません。伝統や慣習も含めそれぞれに異なっていた“各地域の状況”も随分と変容しました。そして学校で定める規則については報道で取り上げられる機会も多くなり、実態に応じたスピード感のある見直し求められるようになったのを実感します。

そのような中にあっても、きまりについて「はっきりと決めてくれないと困る」とか「いいとも悪いとも書いていないのだからどうやろうと勝手だろう」といったニュアンスでの言い分は存在します。

“その立場に立つ側”が“はっきりと境界線”を示し、“提示された側”は“言われた通りにすればいい”という意見が強い時代もありました。しかし、多様化した社会や複雑化しそうな将来を見据えると“自分で判断材料を集め”“それを元に個々が自己決定する”ことがこれまで以上に大切になりそうです。私は、校則についてもこれからは『生活面や学習面で、よりよくあるためにどうしたらよいか』を生徒や保護者が話し合う余地を多くすることが大切だと考えます。“管理に便利のように細々とした決めごとを作り”“従わせる”から、“選択幅を広げ”“時としては迷う場面を生じさせ、その悩みを意見としてまとめて述べるようにさせる”への転換です。「発言が次のルール改訂につながる可能性を含む」、つまり「声を上げれば変化を起こせる」ということを学べるようにしたいのです。

確認してみてください。「ポロシャツにする」のではなく「ポロシャツ **も**可とする」です。ワイシャツやブラウスの代替だいたいですがインナーの透けが心配とPTAから意見をいただき「無地の白・紺 **等**」としてあります。名札を着用するためには「ポケット付きのものがいい**かもしれない**」「ブランドタグもワンポイント**も**OK」「ポロシャツに限り裾を出す**のも**構わない」など、利用者の裁量さいりょうを多くしたのは上記の発想からです。一方、校内では体育での着替えのために、更衣の部屋を設けるようにしました。授業時等の安全面を考慮して体育着の裾を出しはさせません。急ぐあまり、生徒会やPTAからの意見を集める十分な時間をとれませんでした。今後の「ルールメイキング」にあたってはさらなる工夫をしていきたいと思います。突然のお知らせに皆様を驚かせたかもしれませんが、「学校は保守的な場所で、変化のスピードも遅い」と揶揄やゆされたりもしますが、3日足らずで改訂できたのは、各家庭を信頼できる本校だからこそです。これからもご協力をお願いします。ご意見もお寄せください。